

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2026年度)

専門分野区分	e-ビジネス	科目名	e-ビジネスデザイン技術	科目コード	T1980C2
配当期	前期	授業実施形態	通常	単位数	2 単位
担当教員名	廣本 寿夫	履修グループ	選択(4AB)	授業方法	講義
実務経験の内容	<p>富士通にて20年間勤務。2002年、富士通コンサルティング事業本部の設立に参画し、人材育成、認定制度の設計、ナレッジマネジメント、専門人材のコミュニティ運営などを推進。 現場起点の実践知を活かし、組織変革と価値創出の仕組みづくりに取り組む。</p> <p>2006年に株式会社ワイドブックを設立し、現在で18年目。 企業・大学・自治体と連携し、人材育成、新規ビジネス支援、教育プログラム開発を中心に多様なプロジェクトを展開。 また、「社長塾」「女性塾」などの実践型プログラムを通じて、後継者育成や新規ビジネスへのチャレンジを支援している。</p> <p>さらに、2023年度より岡山大学にて非常勤講師を担当。 アカデミアと実務の架け橋として、教育と実践をつなぐ取り組みにも注力している。</p> <p>現在は岡山県・蒜山高原にて、IoTを活用した農業の実証実験も実施中。 Webカメラによる害獣検知と反応記録を通じて、データに基づく次世代農業のモデル化を目指している。</p>				
学習一般目標	<p>本講座では、ビジネスの仕組みを理解し、技術者としての立場から新しいビジネスの企画・立案を行うための基礎能力の習得を目指します。具体的には、技術者に必要なイノベーションと新規事業創出について知るとともに、その企画・立案を行うための基礎的なプロセスを学びます。</p> <p>ここ数年、IoT、AI等、現在、社会におけるIT分野の進歩は、ますますスピードを増すとともに、IT分野を中心としたイノベーション、すなわち新たな価値の創造が求められ、大手企業を先駆けに、次々と新しい価値を生み出す新規事業創出部門が新設されています。その中で、自分たちが持つ技術に新たな価値を付加して、どのような形で世に出すか、その技術を理解している技術者こそが、イノベーションを実践し、新たなビジネスを創り出せると期待されています。それらの基本となる部分を本講座で学びます。</p>				
授業の概要および学習上の助言	<p>講座受講にあたって、ビジネスに関する前提知識は必要ありません。新規ビジネス創出の際に用いられるアイディエーションの手法から、マーケティングの基礎、必要となる各種分析手法の基礎を、一から簡単な形で授業に取り入れていきます。</p> <p>これらを一貫して手軽に学ぶことができるのは、在学中だからこそです。アイデアを形にしていくプロセスを模擬体験しながら学んでいきましょう。実制作・実開発は行いません。</p> <p>授業では、講義と演習を適度に交え、新規ビジネスの企画を考えていきます。特に後半では、グループワーク(一人グループも可)等、ワークも取り入れます。授業内では、それぞれのグループのケースに応じた学びをフォローします。</p>				
教科書および参考書	「e-ビジネスデザイン」(株式会社ワイドブック発行)				
履修に必要な予備知識や技能	チームでの活動ができることが望ましい。積極的に演習に参加できること。 これまでに学んだ技術や、現在開発されている新技術など、各自が興味ある技術を中心に、様々な情報収集をしておくことで、新たなアイデアを生み出すことにつながります。				
使用機器	プロジェクターとスクリーンを使用します。				
使用ソフト	Microsoft PowerPoint(発表時に使用できることが望ましい)				
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が到達すべき行動目標			
	1	新規ビジネス企画を成功させるための全体像が理解できる			
	2	世の中のビジネスやトレンド、専門分野の技術などに興味を持ち、情報を収集し新規ビジネスのアイデアに活用できる			
	3	ビジネスモデルを企画するノウハウを理解し、活用できる			
	2/3	「新規ビジネスモデル」を策定できる			

		4	「新規ビジネスモデル」の提案プレゼンテーションを実施できる						
達成度評価	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
	学部 D P	1.知識・理解		10					10
		2.思考・判断		40					40
		3.態度		20		10			30
		4.技能・表現				20			20
		5.関心・意欲							
	総合評価割合		70		30				100
評価の要点									
評価方法	評価の実施方法と注意点								
試験									
小テスト	授業内の提出物、授業内演習での取り組みやその発表等により評価します。総合計点を70点に案分します。								
レポート									
成果発表(口頭・実技)	新規ビジネスモデルの発表の内容により評価します。 プレゼンの技術そのものの評価比率は大きくありませんが、内容が十分に伝わらないと評価に結び付きません。プレゼン資料は、PPT、紙資料等企画内容を十分に伝えるために適切なものを準備し、伝えるプレゼンをしてください。								
作品									
ポートフォリオ									
その他									

授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	オリエンテーション シラバス説明 自己紹介	講義 演習 フィードバック	
第2回	情報システムの変遷 情報システムの変遷を理解する	講義 演習 フィードバック	
第3回	現代社会とビジネス環境 ビジネスの現状や現代社会の状況を理解する	講義 演習 フィードバック	
第4回	創造力とイノベーション 新しい価値の創造について理解する	講義 演習 フィードバック	
第5回	アイディエーション 新規ビジネス企画に必要なアイデア脳(アイデアを生み出せる力)を育成する	講義 演習 フィードバック	

第6回	構造化(カード型ブレインストーミング) 構造化のノウハウを習得する	講義 演習 フィードバック	
第7回	アイデアとビジネスモデル 事例をベースにアイデアをビジネスモデルにするプロセスを学ぶ	講義 演習 フィードバック	
第8回	ビジネスモデル キャンパス ビジネスモデル キャンパスを活用し、ビジネスモデルを構築するノウハウを習得する	講義 演習 フィードバック	
第9回	新規ビジネス企画のプロセス ビジネス構造図 ビジネスアイデアを見える化する方法を習得する	講義 演習 フィードバック	
第10回	ビジネスモデル構築演習① 各グループで、新しいビジネスを創造する	講義 演習 フィードバック	
第11回	ビジネスモデル構築演習② 各グループで、新しいビジネスを創造する	講義 演習 フィードバック	
第12回	ビジネスモデル構築演習③ 各グループで、新しいビジネスを創造する	講義 演習 フィードバック	
第13回	プレゼンテーション「新規ビジネスモデル発表」 新規ビジネスを発表する	講義 演習 フィードバック	
第14回	◇課題解決型授業1 テーマ「ここまで学習した内容をもとに、IT(またはICT)等に関わる技術を活かせそうなビジネスアイデアを多く考えよう」 詳細は、ユニパ「授業資料第14回」に記載。	遠隔授業 実施時期:2期 (6/1~6/15)	提出課題あり ユニパ「授業資料第14回」に記載
第15回	◇課題解決型授業2 テーマ「第13回で発表するPowerPointの資料を完成させ、プレゼンの準備をしよう」 詳細は、ユニパ「授業資料第15回」に記載。	遠隔授業 実施時期:4期 (7/1~7/15)	提出課題あり ユニパ「授業資料第15回」に記載